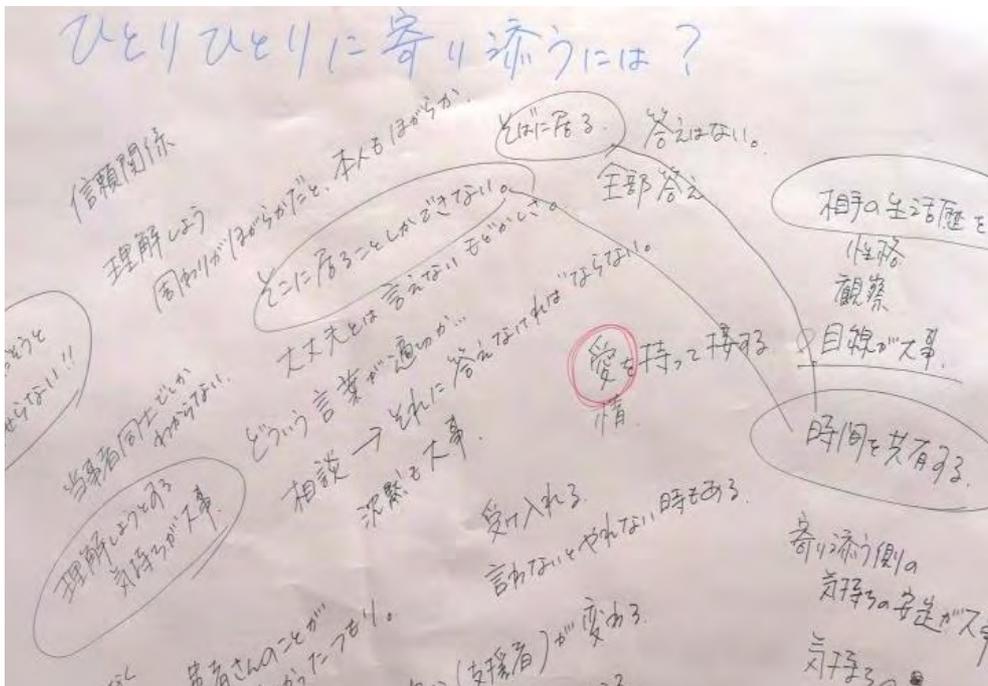


認定特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎

2016年度（平成28年度） 事業・決算報告



《がんサポーター養成講座・ワールドカフェから》

2016年度（平成28年度）活動報告

1、活動のまとめ	… 1
2、平成28年度事業活動実績	
1) 在宅ホスピス支援センター事業（ホスピスボランティア活動）	
①大切な人を亡くした方の集い	… 3
②患者らいぶらり	… 3
③宮崎聞き書き隊	… 4
④看取り寄り添いナース・ボランティア	… 5
⑤緩和ケア病棟園芸ボランティア	… 7
⑥ふらっとカフェ（宮崎県委託事業）	… 8
2) 人材養成のための教育プログラム	
①どんな障害があっても この街で共に生きたい シンポジウム「宮崎県の小児在宅医療を語りたい」	… 9
②ケアする人のためのスキルアップ講座 聞き書き実践講座	…15
③訪問介護職員向けの喀痰吸引等研修（第1・2号研修）	…16
④がん患者・家族のためのサポーター養成研修会（宮崎県委託事業）	…17
3) エンドオブライフケア支援事業	
①暮らしの保健室 ・ゆるりサロン、えがおキッチン、お灸教室、ゆるり短歌会	…24
②よろず相談室	…27
③かあさんの家事業	…28
4) 医療・介護保険規定による事業	
①訪問介護ステーションぱりおん	…32
②居宅支援療養事業所ぱりおん	…33
③訪問看護ステーションぱりおん	…33
5) ホームホスピス推進研修センター事業	
①日本財団在宅ホスピス実践リーダー養成プログラム	…35
②一般社団法人全国ホームホスピス協会事務局の役割	…36
6) 情報・広報	
①ニュースレター発行、ホームページ、マスコミなどの紹介、雑誌などへの掲載	…37
②講師派遣、見学者受け入れ	…38
7) 組織運営	
①理事会・総会	…42
②事務局	…42

1、活動のまとめ

認定NPO法人としての活動

ホームホスピス宮崎は、2015年3月1日付で宮崎県の認定特定非営利活動法人(認定NPO)になり2年が経過しました。認定NPOの活動に対して寄付をすると、申告によって税制上の優遇措置を受けることができますのですが、前年に比べてこの制度を市民の方々に広く広報することができませんでした。認定NPOですから、地域にどのように貢献していき、賛同する人を広げていくのが来期の課題です。

暮らしの保健室の役割

地域の中で様々なニーズに合わせて交流できる場として東京新宿区・戸山ハイツに誕生した「暮らしの保健室」は、全国に広がりを見せています。HHMでも事務局を改築したときに、地域に開かれた相談機能も持つ場を作ろうと、宮崎で「暮らしの保健室」の看板を上げました。

玄関に入ってキッチンがある居間のような空間を作り、気軽に立ち寄れるようにしました。“ゆるりサロン”は一人暮らしだけれど、どこかに出かけるところがあり(用事がある)、その場が遠慮なく言いたいことをおしゃべりすることが介護予防につながっています。今年から、サロンから発展して“ゆるり短歌会”も始まりました。

また、この空間を利用して開かれる“えがおキッチン”や“お灸教室”も好評で、リピーターが増えています。また、聞き書き教室やスキルアップ講座などの研修会や会議など、いろいろな方々の集いの場になり、地域を巻き込んだ丸ごとのケアの体制に欠かせない空間になっています。

ホームホスピスカあさんの家の運営

今期は、かあさんの家の住人11名の方を看取りました。開設当初から12年暮らしておられた方から療養が5年以上になられていた方など、長く共に暮らしていた方々を相次いでお見送りしました。がん治療後の最後のステージにかあさんの家に来られた方や、神経難病でどこにも受け入れ先がなくて住人になられた方など、スタッフにとっては、気の抜けないケアが続いた方々でもありました。どの方もご家族が寄り添って悔いのないお看取りをなさり、忘れられない思い出をたくさんいただきました。

また、スタッフの相次ぐ病気療養などで介護スタッフ不足をきたし、ケアの質を守るためのシフトを組めない状態になりました。そこでご家族にもご相談して、平成29年2月末に「かあさんの家」を一時休止し、檜の住人の方には、曾師と霧島の家に移居していただきました。ご本人の負担を考えると本当に苦渋の決断でした。今後ますます医療依存度の高い人の入居希望は増えていくものと思われませんが、職員の増加が見込まれて再開のめどがつくまで、曾師、霧島、月見ヶ丘の3軒の運営を軌道に乗せる努力をしていきたいと考えます。

訪問看護ステーションぱりおんの運営

開設2年目を迎えました。医的ケアの必要な重度の障害を持った小児の在宅療養を支えるため、奮闘した一年でもありました。宮崎県は小児の在宅医療が進んでいない為、病院から退院できな

い、家庭での生活ができない、介護するお母さんたちの負担が大きいなどの声を聴き、NPOとして果たす役割があるだろうと、「宮崎県の小児在宅医療を考えるシンポジウム」を開催しました。県内の重度障がい児を持つ方々が車いすを押して参加され、会場は熱気に包まれました。今後も小児在宅療養の環境を拓げるための活動をしていくことが望まれています。

宮崎県喀たん吸引等研修機関

介護職による喀たん吸引等研修制度が施行され、介護職が「医行為」を行うには資格が必要となりました。しかし、在宅訪問のヘルパーや有料老人ホームなどの介護職員はなかなか研修を受ける機会がなく置き去りにされたまま法律が施行されました。昨年宮崎県に研修機関の登録をして、訪問介護の職員が研修を受けやすくなるように、実学時間を就労後の夜と土日に組み込む講座を開講しました。これからの高齢社会において、医療的依存度の高い人の在宅療養が増えてきます。介護職がそんな方々の生活を支える為にスキルアップすることも重要で、今年も開講し、かあさんの家のスタッフが資格を取ることができました。

熊本地震の被災支援活動の拠点に

平成 28 年 4 月 14 日夜と引き続き 16 日に、熊本を震源とする震度 7 の巨大地震が起きました。宮崎でも震度 4 の揺れでしたが、熊本にある“ホームホスピスわれもこう”が被災しました。一般社団法人全国ホームホスピス協会の事務局を担っているのも、早速、支援活動の拠点として動き出しました。全国から寄せられる物資の仕分けや輸送、応援スタッフの派遣、ホームページでの呼びかけにも迅速に対応でき、かあさんの家からも保存食や使い捨ての手袋などの物資を運びました。改めて災害時の備えが必要だということで、備蓄食品などの見直しをしました。

NHKBS 地域発ドラマ「宮崎のふたり」の撮影協力

ハートネットTVでかあさんの家が放送されたことから、ドラマに登場する介護施設にかあさんの家をロケに…と申し出がありました。ここは住人の方々の生活の場ですから困難だとお断りし、お隣の内田家をかあさんの家に設け撮影となりました。曾師の看板、車いすや洗濯物、ソフト食などが出演しました。柄本明、原田美枝子、池脇千鶴、市毛良枝、森山未来などの実力派の俳優が出演し、見ごたえのあるドラマが完成、月間ギャラクシー賞を受賞しました。そして、映像は地球の裏側でも放映され、ニューヨークでドラマを見た方が帰国時に見学に来られたというおまけまでありました。

全国にホームホスピスの広がり認定ホームホスピス

2015 年 9 月一般社団法人全国ホームホスピス協会が発足し、その事務局を担っています。協会の仕事が、ケアの質をどう担保するかということで「ホームホスピスの基準」を策定し、それに沿ってレビュー(評価)が始まりました。6 月にかあさんの家もレビューを受けて、認定ホームホスピスになりました。それに伴い全国からの見学者や講演の依頼も増えて、重度のケアが必要な方々が暮らしの中で看取られることがなかなか困難な実態にあるということ、そこに大きなニーズがあることを実感しています。これを実践することには制度の壁が大きいのですが、最期まで暮らしの中で生ききることを支える役割があることを伝えていくことが、かあさんの家の仕事だと考えます。

2、2016年度(平成28年度)事業活動実績

1)在宅ホスピス支援センター事業(ホスピスボランティア事業)

事業	事業概要	事業内容と実績
大切な人を亡くした方の集い	実施日時: 毎月第4月曜日 10:00～ 場所:日本キリスト 教団宮崎教会 担当:脇坂峰子	◆実施日:(参加人数) 2016年4/25(7), 5/25(7), 6/27(4), 7/25(4), 8月休 会, 9/19(4) 10/24(6), 11/18(6), 12/12(5・食事会), 1/23(5), 2/27(5), 3/27(4) <p style="text-align: center;"><u>合計 11回 延べ参加者数 57名</u></p> ◆内容: この一年変化せずに4,6名の出席です。それぞれ デイサービスに行かれています。 9月は諸々の事情で第4週から3週に変えたところ4週月曜 日に新しい方が教会を訪れ、牧師夫人が対応して下さいまし ました。出席しておられる本田さんに連絡がありました。その後本 田さんが電話して下さり来月に来られる事になりましたが「風 邪で出席が出来なかった」と電話がありましたがその後來られ ていません。宮崎教会の方が従姉妹さんを連れて来られまし ましたがその後の出席はありません。 第4週月曜日に開催することが大事だと思い知りました。 <p style="text-align: right;">(脇坂峰子記)</p>

患者らいいびらり	<p>実施日時: 第1・第3木曜日 14:00 から 16:00 場所: 古賀総合HP 中央4F病棟 東棟3F病棟産婦人科</p> <p>担当: 畠山桂子</p>	<p>◆実施日: 2016年4/7、4/21、5/12、5/19、6/2、6/16、7/7、7/21、8/4、 8/18、9/1、9/15、10/6、10/20、11/10、11/24、12/1、 12/15、2017年1/12、1/26、2/2、2/16、3/2、3/16</p> <p style="text-align: center;"><u>合計 24日 活動延べ人数・・・52名</u></p> <p>◆貸し出し</p> <p>中央4階内科病棟 利用した人数 468名 貸し出された冊数 809冊</p> <p>産婦人科病棟 利用した人数 303名 貸し出された冊数 640冊</p> <p><u>総合計 利用者 711名 貸出冊数 1,449冊</u></p>
事業	事業概要	事業内容と実績
患者らいいびらり	<p>◆ボランティア:11名 畠山桂子、黒木洋子、 峰瑞枝、野平トヨ子 矢野小枝子、溝口量子 村中伸子、郡山久美子 宮崎商業高校3名</p>	<p>◆返却</p> <p>中央4階内科病棟 利用した人数 481名 返却された冊数 729冊</p> <p>産婦人科病棟 利用した人数 313名 返却された冊数 622冊</p> <p><u>総利用者 785名 返却された冊数 1211冊</u></p> <p>◆今年度は、子育ての本、文字の大きな本、糖尿病の方向けの料理本などのリクエストをいただき、入荷した。 夏休み期間には、宮崎商業高校の3年生3名のボランティア参加があったが、継続していける新規ボランティアがいなかったため、若い人で子育てなどの経験がある方のボランティアが参加して下さるとよいなと思っている。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">宮崎聞き書き隊</p>	<p>◎聞き書き定例勉強会</p> <p>実施日時： 毎月第2日曜日 10:00～12:00</p> <p>場所： 暮らしの保健室 市民活動センター 担当：井上直敬</p> <p>◎リレー聞き書き</p> <p>期間：H28/4～H29/3 場所：デイケアかなりあ ハートピア細見クリニック 参加ボランティア：7名 高橋芳香 續田トミコ 西川良子 廣井寿美子 峰瑞枝 本田澄子 井上直敬</p>	<p>◇聞き書き勉強会 (参加者数)</p> <p>2016年 4/17(10)、5/15(13)、6/12(4)、7/10(7)、8/21(8)、 9/11(10)、10/16(6)、11/13(3)、12/18(5)、2017年 1/15(7)、 2月(休会)、3/12(8)</p> <p style="text-align: right;"><u>合計 11回 延べ参加者数：81名</u></p> <p>講座を受けたあとを定着した活動に導くために、聞き手・書き手としての疑問や行き詰まりを解消するために定期的に実施している。また交流の場、情報交換の場としての機能ももっている。</p> <p>◇リレー聞き書き</p> <p>細見クリニックの‘デイケアかなりあ’で実施されている回想法によるケアに黒子として参加し発せられる言葉をリレー一式に拾い集めて各利用者別に一冊の聞き書き本として差し上げている。</p> <p style="text-align: right;"><u>合計 34回 延べ参加者数 45人</u></p> <p style="text-align: right;"><u>利用者：14名（延べ129回）</u></p> <p>冊子 : 10名(述べ97回分)に冊子を差し上げることが出来た。</p>
	<p>事業</p>	<p>事業概要</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">宮崎聞き書き隊</p>	<p>◎個別の聞き書き 依頼を受けて聞き書きを実施</p> <p>◎聞き書きの研修</p>	<p>◇個別聞き書き</p> <p>本田澄子・・・80歳代・女性 『パラオ』 戦争で翻弄させられた移民の話</p> <p>本田澄子&續田トミコ・・・70歳代・男性 『思い出ばなし』 介護予防デイケアの利用者が語った人生</p> <p>續田トミコ&斎藤・・・90歳代・女性 『人生薔薇色』 介護予防デイケアの利用者が語った人生</p> <p>井上直敬・・・90歳代・女性 『山っていいがね』 介護予防デイケアの利用者が語った人生</p> <p>廣井寿美子・・・90歳代・男性 『激動・昭和のひとこま』 日本人学校の教師として大陸に渡った経験</p> <p>◇聞き書き講座参加 聞き書きスキルアップ講座 期日：平成29年3月25日 講師：小田豊二先生を迎え 会場：暮らしの保健室で実施。 聞き書き隊さ参加者：24名。</p> <p>参加したボランティアの感想</p> <p>・小田先生のわかりやすく楽しく詳しく聞き書きについてのお話を聞かせていただき、ありがとうございました。2年ほど前に聞き書きに興味を持ち、遠くに住む父へ電話聞き書きしようと1回だけ聞いたものの、いまだにまとめられていないので、今年ちゃんとやってみようと思いました。</p> <p>・何度聞いても新しい気づきがあり、勉強になった。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">看取り寄り添い ボランティア・ナース</p>	<p>看取り寄り添いナース 久保野イツ子 本田澄子 入佐典子 雲山良子</p>	<p>実施場所・・・自宅3件、 介護施設1件</p> <p>1. 小林市：実践者 本田澄子</p> <p>95歳女性：施設より肺炎にて入院したが完治せず自然な形で看取りたいと家族の要望で今まで過ごした施設で見守る。経験のないヘルパーを支援してほしいと主治医の依頼もあり合計3日の訪問時間16時間で施設ヘルパーさん、ご家族と共に死後の処置をした。</p>
	<p>事業概要</p>	<p>事業内容と実績</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">看取り寄り添いボランティア・ナース</p>	<p>利用者： 5名</p> <p>期間： <u>実施合計時間</u> <u>36.8時間</u> <u>延べ日数 37日</u></p> <p>学会発表： 本田澄子</p>	<p>2. 宮崎市：実践者 久保野イツ子 90歳男性：肺がん 心不全 腎不全の末期がん S病院長依頼にて情報収集。担当訪問看護ステーションと同行した。土日は息子さんが泊まるとのことで月曜日からの訪問の約束を奥様としたが残念ながら早朝に死亡連絡を訪問看護ステーションからいただいた。</p> <p>3. 宮崎市：実践者 久保野イツ子 65歳男性：難病の方で吸引が昼夜必要。奥様の疲労を心配されて在宅診療医からの依頼で担当訪問看護ステーションへ情報収集に出向いたが奥様が頑張ってみたいとの要望強いかかわる時期の様子を見ることとした。</p> <p>4. 宮崎市：実践者 久保野イツ子 59歳女性：末期がん腓頭がん 訪問看護ステーションからの相談で情報収集に行く。まだまだがんを本人もご家族を受け入れていない。娘2人が仕事しながら交代で看病している。ご主人はどうしてよいかわからない様子。訪問看護ステーションへ看取りより添いナースのチラシと契約書を渡したがその後連絡なし。</p> <p>◇日本ホスピス・在宅ケア研究会 IN 久留米全国大会 シンポジウム「わが町・わが家で暮らす 命に寄り添って～在宅ホスピスに寄り添うボランティアの仲間たち シンポジスト・・・本田澄子</p> <p>「看取り寄り添いナースの実践」を報告</p> 
	<p>事業概要</p>	<p>事業内容と実績</p>

実施日時：
第1・第3水曜日
10:00～12:00
場所：
宮崎市郡医師会病院
緩和ケア病棟 中庭

◆園芸ボランティア：
原田ゆみ子、村中伸子
脇坂峰子、岩本錦子
岩本玲子・、中村ヨシ子
甲斐けい子、南涼子
計8名

◎緩和ケア病棟の庭園の花の管理等

◆手順

- 1、緩和ケア病棟の受付に挨拶し、受付で鍵を借りる
- 2、庭で植物等の手入れをする
- 3、ボランティアルームで活動ノートを書き、受付で終了の旨伝え辞す

◆実施日(参加人数)

2016年4/6 (2名、4/20 (4)、5/11 (2)、5/18 (2)、6/15 (2)7/6 (2)、7/20 (3)、8/3 (2)、8/17 (3)、9/7 (2)、9/21 (2)、11/2(1)、11/16 (2)、12/7 (1)2017年1/11 (5)、2/1 (3)、3/1 (1)、3/15 (2)

合計 18日 延べ参加人数 41名

*緩和ケア病棟が休みになっていて、患者さんがいらっしゃらなくて寂しい。いつでも再開できるようにお庭を手入れしておこう。

*作業が終わると、ボランティアルームにお茶が用意してあり、おもてなしを受けてほっとする。

*ボランティアの数が減り、新しい人の参加を願う。

◆活動内容

- 4/6・・・桜が満開。花柄取り、草取り
- 4/20・・・花柄摘み、草取り
- 5/11・・・落ち葉拾い、ノースポールのカット
- 5/18・・・花柄取り、散水
- 6/15・・・枯れ花摘み、ミント刈込み、草取り
- 7/6・・・ユーカリ、パームの枯れ枝掃除、草取り、花がら摘み、アジサイの挿し木と整理、花壇の雑草取り
- 7/20・・・散水、枯草掃除
- 8/3・・・萱の切り取り、草取り、枯葉掃除、散水
- 8/17・・・散水(手元の故障を報告)、枯葉掃除
- 9/7・・・枯葉掃除、草取り、グラジオラスのカット
- 9/21・・・台風後の枯葉掃除、花がら摘み、草取り
- 11/2・・・カンナの枯れ茎切り取り、草取り
- 11/16・・・落ち葉の掃きよせ、月桂樹に蓑虫が異常発生の為、枝を落とす作業
- 12/7・・・花がら摘み、枯枝掃き取り
- 1/11・・・枯草取り、花がら摘み
- 2/1・・・枯草取り、枯れ枝剪定、花がら摘み
- 3/1・・・ビオラ・シクラメン、ノースポールなど花柄取り、大鉢の草取り
- 3/15・・・花柄とり、枯葉掃き

事業	事業概要	事業内容と実績
がんサロン(ふらっとカフェ)事業・主催：宮崎県 運営企画：ホームホスピス宮崎	<p>実施日時： 毎月第2水曜日 13:30～16:00 場所：県立宮崎病院 3階会議室</p> <p>カフェスタッフ： 市原美穂、久保野イツ子、太田幸子、松枝文子、有村喜久代、お茶の係として、緒方道子、村中伸子、小倉優子、</p> <p>アロママッサージ： 日高里美、杉尾ひろみ、伊藤千春、中川加代子</p> <p>担当：太田幸子</p>	<p>◆実施日（参加人数） 2016年4/13（7）、5/11（4）、6/8（2）、7/13（11）、8/10（8+取材5（県関係）、9/14（13）、10/12（11+見学1）11/8（8）、12/14（11）、2017年1/11（6）、2/8（10）、3/8（8）</p> <p style="text-align: center;">合計 12日 延べ参加人数 105名</p> <p>名称：ふらっとカフェ…だれでもふらっと気軽に立ち寄れる場所、気兼ねなくフラットな関係で何でも話せる場所という意味を込めて広報は、県病院内の全職員へチラシを配布、外来等に掲示、ラックへ入れて頂き、患者さんへも配布。当日は、がん相談室担当の方が、手作りで案内板を正面玄関の所に立ててくださる。</p>  <p>・カフェスタッフは、当日、会議机を動かし、テーブルクロスをかけ、花を飾り、写真を壁に掛け、絵をイーゼルに掛け、音楽を流し、入口にカフェ看板を立てる。コーヒー、紅茶、抹茶、緑茶などの温かい飲み物と、ちょっとしたお茶菓子を用意する。県内のがんサロンの一覧、医療用ウイッグを取り扱っている美容室などのご案内、闘病記、食事療法、ガイド本、絵本なども用意する。</p> <p>来場者をテーブルに招き、飲み物の注文を聞き、飲み物とお菓子を出し、お話を伺う。簡単なアンケートを記入してもらおう。できるだけ、カフェの終わりの時間でスタッフの話し合いの時間を作り、振り返りを共有した</p>

2) 人材養成のための教育プログラム

①小児在宅医療シンポジウム

「公益財団法人 笹川記念保健協力財団」助成

実行委員長 訪問看護ステーションぱり

おん

報告者：堤 育子

1) 活動の目的

地域包括ケアシステムの構築が叫ばれる昨今、高齢者についての議論は高まっているが、重度障がいがありながら自宅で療養している子供や家族に対してのサービスやシステムが十分でない。また宮崎県は小児の在宅看取り例が少なく、重身児を自宅で看ながら生活を続けている親は疾患の悪化の不安はもとより、将来の不安を抱えながら生活している。また睡眠時間は少なく、学校への送迎に追われ疲弊し兄弟児への子育ての時間の制約や、子自身に我慢を強いられているケースも多い。

私たち地域看護、医療に携わる者、当法人の使命として「この地に生まれてから最期までその人らしく、生き生きと暮らせる街を作る」ことが挙げられる。大会を運営するにあたり、関係者や家族と協力して活動することでネットワークの構築や親の社会参加の一助となることを期待した。このシンポジウムで小児在宅医療を積極的に実践している医師や看護師の話聞くことで、本県の病院医療関係者に小児在宅ケアを知ってもらい、主に成人の診療をしている在宅医療従事者には小児在宅医療のノウハウを知り、一人でも多く「小児をみることが出来る医療や福祉職が増える」ことが目的である。また重度心身障がい児の家族の思いや意見を明らかにし、地域の医療者、福祉職や一般市民、行政、学生らに理解や関心を深める機会としたい。

2) 内容

どんな障害があっても この街で共に生きたい

～宮崎県の小児在宅医療を語りたい～

【期日】平成28年10月15日(土) 13:00 開場 13:30 開演

【会場】宮崎県医師会館

【講師】基調講演：高橋昭彦（ひばりクリニック（栃木県）院長、
認定NPO法人うりずん理事長）

シンポジスト：

弓削昭彦（ゆげ小児科院長）

田口貞子（熊本県萬世会訪問看護ステーション主任 訪問看護認定看護師）

愛甲晃子（四つ葉の会会長）

濱田裕子（NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト代表）

【参加費】500円 療育手帳と身体障害手帖保持者は無料

【参加者】120名

基調講演：

「小児の在宅医療とレスパイトケア～子どもと家族の暮らしにどう向き合うか」

栃木県宇都宮市で小児科を開業し、人工呼吸器の子供を訪問診療していた。母親が体調悪く子供のケアができないと父親が仕事を休んで看ている姿に、重度の子供の行き場がないことに気付く。自身の診療所に通える場所を作り、認定特定非営利活動法人化し活動を広げる。高橋氏が活動を始めたきっかけや、障がい児の修学旅行支援、動物園に行くなどの活動を発表し、経験値0を1にすることへの価値を話された。

障がい児や子供も自由に入場できる会場にした。先生のハートフルな語り口調に皆、笑ったり泣いたり終始温かい空気が流れていた。



シンポジウム：

「宮崎県の小児在宅医療を広げたい、深めたい、未来を語りたい」

～重度障がい児を持つ家族とケアラーのシンポジウム～

シンポジスト

弓削氏（小児科医）開業し小児科診療を行い、重度障がい児も診療している。家族の大変さや受診の困難さは十分わかっている。訪問看護指示書も作成している。現状は外来診療で手一杯である。できるだけ重度障がいがあっても笑顔で暮らせる家族が増えるよう尽力したい。

田口氏（訪問看護師）熊本県の訪問看護ステーション所長で訪問看護認定看護師。熊本県は病院との連携により、小児在宅診療医が複数名いる。在宅の看取りも行われている。外出支援や在宅療養の実際を発表。また熊本地震での訪問看護師としての取り組みや病院の現状、受け入れ状況などを発表された。

愛甲氏（親の会会長）人工呼吸器を装着した娘（中学生）の現在までの過程や思いを発表。学校へ毎日連れて行くこと、呼吸器がついていることでずっと学校にいらなくてはいけないこと。働きかけにより看護師が週2回時間を決め

てついてくれることになった喜び。成人に向けて自立への希望などを伝えた。親の会を作ることで行政に陳情したり、懇親会で親同士のつながりで勇気や情報をもたらしている。

濱田氏（小児ホスピス研究家 大学医学研究院保健学部門看護学専攻准教授）小児ホスピス活動の概要や活動の実際。ホスピスとは単にこどもの看取りの場ではない。重度の疾患や障がいを持つ子どもや家族の生活をトータルに支える場所である。アルフォンス・デーケン氏の子どもホスピスは、社会における文化の成熟度を測る尺度となりうるという言葉を用い必要性を発表された。

会場から ロビーに展示したきぼうの木から、ショートステイを作って欲しい、家族みんな笑顔で暮らしたい、ネイルアーティストになりたいなどの言葉が綴られていることを発表した。会場からは障がい児が夜間に急変し在宅医に問い合わせたが、診れないと断られて困ったエピソードを伝えられた。それに対し、辛い思いをされたんですねと共感的に対応した。現状を行政に伝えていくことが大切、医師や看護師は何とか力になりたいと思っている人がほとんど、遠慮なく希望や思いを伝えて欲しいとの回答もあった。

医療職者は「この会に参加して胸がいっぱいだ。こういう会が必要とはわかっていたが実現は大変。現実にこれだけの人が集まり話を聴けて有意義な時間だった」と感想を述べた。



3) 実施経過

【実行委員会】13回開催

1/23・・・6人参加：地域の小児在宅医療は進んでおらず、親や子供たちの行き場がない現状がある。法人のコンセプトである「どんな疾患や障がいがあっても、誰でも最期まで自分らしく生ききる」為に協力したいという意見が出た。28年度に小児シンポジウムを開催し、実行委員会設立することになる。

2/24・・・10人（親の会 地域の社会福祉法人理事長 訪問看護師 理学療法士 大学教員）シンポジウム形式で、小児在宅医療を行っている医師を招致し取り組みを講演してもらう。また小児在宅看取り率の高い熊本県の訪問看護の取り組み、小児在宅を外来で診ている医師、小児ホスピス活動家、親の会代表者にそれぞれの活動や思いを発表してもらうことにした。

4/8・・・5人参加：運営方法や資金の調達方法を話し合う。

- 7/4・・・11人参加：実行委員会。場所やシンポジストの確認。日程の決定、場所の交渉、ボランティア募集方法を確認する。フリーマーケット開催。
- 8/14・・・会場ロケーションの結果、配置検討、キャパ確認、必要器材の確認。
- 8/24・・・17人参加：会場の確認、チラシについて、配布方法、名義後援確認、フリーマーケットの開催方法確認、ボランティアの募集方法、託児の方法、重心児の託児方法
- 10/6・・・15名参加：チラシ配布、参加人数、シンポジスト、講演者交渉進捗状況。10/15・・・シンポジウム当日。別紙参照
- 11/29・・・10名参加：反省会。参加人数や場所、当日の動きについて。会計処理経過報告。
- 2017/1/6・・・10名参加：記念誌作成について概要の話し合い。予算について。
- 1/19・・・11名参加：今後の活動について
記念誌作成中。来年度はどうするか。開催の要望は強い→実行委員を続行して完成し話し合いを行う。当事者たちの声を集めることが重要。行政にも声を上げていく。メディアやSNSを使って発信しては？
- 2/9・・・15名参加：次年度のシンポジウム開催に向けて実行委員会の組織作りを始める。

4) 活動の成果

①シンポジウム

会場の150席はほぼ埋め尽くされ、医師、看護師、歯科医師、セラピストなど医療従事者が4割を占め関心が高かったことが伺える。また看護大学、専門学校、総合病院小児科看護師など普段、在宅ケアの実情が見えにくいと思われる施設の看護師が多く来場した。他には介護職者、福祉職者、保育士、教員など。活動目的の小児在宅ケアの実情を知ってもらう機会になったと思われる。訪問看護ステーションからも多数参加しており、小児訪問看護を行っているステーションが県内42%という現状からも、今後取り組みたい意欲はあるという言葉があった。

参加した障がい児の家族は、レスパイトの言葉すら知らなかったという意見があった。また、「自分たちも旅行したり、遊びに行っているんだ」と普段息を抜くことすら許されていないと思込んでいる家族が多いことに気付かされた。兄妹児やレスピレータをつけている子供も参加できる機会を作ってくれて嬉しかったという声が多かった。

②ボランティアとフリーマーケット

看護学生や教員、看護師がボランティアとして31名参加し、障がい児の関わり方や親の気持ちが良く分かったと話した。子どもや家族は友人がたくさんいて楽しそうに会場にいる人は皆笑顔だったことが印象的だったと述べていた。小児への関わりなど苦手としていた学生もいたようだが、自然に関わる姿勢や、重度心身障がい児への理解や家族の思いを知る機会となった。

フリーマーケットでは8団体が出店。多くの手芸上手な親がこの日の為に何ヶ月もかけて準備したようだ。盛況で売り上げも良かったと聞いている。生きがい作りやコミュニティの場作りの一端を担えたと思われる。

③実行委員活動を通して

親が実行委員に加わることで、当事者たちが立ち上がり活動が続けることも目的だった。参加することで障がい児や他児の世話を追われていた生活から、社会に参加した実感があり活動の意欲が向上したと語った。実行委員はこのあと、このネットワークを生かし来年度のシンポジウム開催や親の会と連動してイベントの開催などを企画していきたい意向である。またこの会を通して県内の離れたエリアの親同士がつながり、勉強会と懇親会を開いたという報告を受けた。テレビ局の記者も来場しておりその後、親の会の取材も行われたようだ。

協力団体（実行委員メンバー含む）

- ・医療的ケアを必要とする子の親の会「四つ葉の会」
- ・訪問看護ステーションらふたーらいふ、・ろけっと訪問看護ステーション
- ・ひとえ歯科クリニック、・ゆげ小児科、・いちほら医院
- ・宮崎大学医学部看護学科、・女性健康ケアサポート団体Re+、介護サービスさち
- ・障害者デイサービスサニースマイル、・合同会社めびうす、(株)メヂック呼吸器センター
- ・宮崎酸素、大塚製薬

アンケート結果（回収率 48%）

- 性別 男性（10） 女性（45）
- 年齢 20歳代（14） 30歳代（11） 40歳代（16） 50歳代（8） 60歳以上（5）
- 職業（お持ちの資格があればすべてに○を）
保護者（4） 教員（2） 医師 歯科医師 保健師（1） 看護師（18） 准看護師（2） 保育士（2） 理学療法士（2） 作業療法士（1） 言語療法士 介護福祉士（6） 社会福祉士（2） 精神保健福祉士（3） 歯科衛生士 臨床心理士（1） 学生（11） ケアマネジャー（1） その他（5）（団体職員） 公務員（1）
- 現職種
作業療法士（1） 訪問看護師（6） 相談員（1） 難病支援団体職員（1） 訪問介護員（1） ヘルパー（2） 訪問介護事業所（1） 臨床心理士（1） 相談支援専門員（4） 看護学生（8） 管理栄養士（1） 保育士（1） 日中一時支援看護師（8） 理学療法士（1） 介護士（1）
- 大会の趣旨は理解できたか【理解できた 98% 一部理解できなかった 2%】
理由：小児在宅のシステムについて全てわかったとは言えない。
- 研修の時間は適切であったか【適切 95% 長い 3% 短い 2%】
理由：①シンポジウムが長かった②もっと聞きたかった。
- 研修のスライドや資料、講義内容は【よい 92% どちらかというといよい 8%】

自由記載

- ・全ての講演の方々の内容が分かりやすく、自身も重度の心身障がい児を持つ親なので、こういう会で色々な方々が親の心の叫び等、そういう思いとか感じとってもらえたのではないか、またレスパイトについても考えてくださっている事にとっても感謝している。

- ・在宅小児の実態を知る機会がなかったため、とてもよい機会になりました。
- ・小児の訪問は経験がない現状です。四葉の会の活動を聞いて自分が（自ステーションも含め）今後少しずつ、小児看護も実践できるようにしたいと思います。
- ・「0から1へ」印象に残りました。来年も！
- ・できない理由を探すのではなくできる方法を考え工夫してみんなが暮らしやすい社会づくりに携わっていきたいと思います。
- ・小児看護に進むことを尻ごみしていましたが、今回のシンポジウムで自分のやりたい道に進もうと思いました。
- ・いつまで介護したいですか、の問いに自分が死ぬ時に一緒に連れていきたいという答えをみたとき、障がい児を持つ親の思いが少し分かった気がしました。
- ・お母さん方への負担が大きい事、兄弟への影響の大きさを感じた。沖縄と広島での修学旅行の事や、車やレンタル駐車場を借りたりと学校、行政への壁を感じた。
- ・大変勉強になりました。宮崎の医療の発展、願っています。大変良かったと思います。
- ・医師、看護師、ご家族、それぞれの立場からお話が聞けて大変勉強になりました。日頃、病院で、患者さんと関わる時間は少ないですが、在宅での生活をイメージしながら、患者さんだけでなくご家族も含めたかかわりをしていきたいと改めて思いました。
- ・小児医療に携わりまだまだ日も浅く、知識も経験も不十分な中ですが、患者・家族の在宅支援、とても興味があり、今日は実際の状況を聞くことができ、とても勉強になりました。まだまだ支援が足りていない状況で、家族、看護師、医師、リハビリ、相談員連携し合って、協力、支援できていくといいなと思いました。
- ・小児在宅の問題をみんなで共有することができたのですがすぐには解決することはできないが来年もしてほしいです。もう少し時間があつたらよかったですと思います。
- ・障がい児をもつお母さんの話を実際に聞いてとても心を動かされた。訪問看護に小児が多くなっていることを知り在宅でみるということの大切さを知った。

I. 今後の課題

実行委員から「支える会」として活動していく予定。29年度にも同様のシンポジウムを開催する予定である。ショートステイ、小児在宅診療医がいない現状は変わっておらず、医師会や小児科医との連携も重要である。シンポジウムやフォーラムを開催し現状の声を上げる場が必要だと実感している。今後も同様の活動が必要だろう。親たちと連動し同会や行政へ陳情していく姿勢は続けていきたい。

当法人としては「ホームホスピス宮崎」として成人者だけでなく、生まれてから死ぬまで誰もが地域で安心して生ききることを目指している。現在訪問看護で重度心身障がい児への訪問、レスパイト訪問、イベントの開催、外出支援などを行っている。シンポジウムで親の要望としてショートステイの希望を多く挙げられた。今後施設の建設を視野に入れて活動したい。

②宮崎聞き書き学校

日時：平成29年2月25日(土)10時～15時

場所：ホームホスピス宮崎内 暮らしの保健室

参加人数：25名



聞き書きとは、人生の大先輩であるお年寄りの話を聞いて、それを書き留める後世に残すことを言う。

傾聴することは、すべてのケアの現場で必要とされること。

今回は～聞き書きをケアの現場に活かそう～ということで、看護大学、医学部にも声をかけた。



参加者の感想

・回想法という形で聞き書きに少しかかわらせていた中で、もう一度聞き書きの意味を確認できました。寄り添うのではなく、なりきよという姿勢も大切という考えに共感しました。

(もちろん、寄り添うことも大切として…。)

・おもしろ楽しく胸がキューンとしました。一人の方にゆっくりお話を聞く大切さ、そこから生み出される話す方、聞き書きする方、ご家族との魂の会話が想像されて、楽しみながら自分自身の成長のためにもチャレンジしたいと思いました。

・とてもおもしろく聞かせていただきました。常々、義母の話を2～3時間から4～5時間聞けることがあります。ずっと以前から友人にやってみるといいよと言われているところに今日のこの講座でした。よくばらず、少しずつ文章にして、ぜひ義母との関係を続けていこうと思います。

ありがとうございました。

・高齢の方や自分の親に対しても記録しておくこと、聞くことによる心の安定をもたらすことができるということを学ぶことが出来ました。

・初めての参加。聞き書きの意味も分からず、以前、一度小田先生の講演をオルブライトホールで聴かせていただいていたので、新聞でこの企画を見つけてワクワクしました。1回だけの勉強会で活動することは難しいと思いますが、今後も興味(アンテナ)を持っていきたいと思っています。

・話の引き出し方について、記者としてとても勉強になりました。小田先生のお話は、テレビを見ているような感じで、とってもおもしろかったです。実家の祖母と話したいと思っています。

・職業柄、人の話を聞く機会が多いので、利用者さんとの会話の中で思いを書きとめ、ご家族や職場のスタッフにも思いを伝えればと思います。聞き書き書き方～作成まで勉強になりました。

・初めて受講。すべてが新鮮。小田先生のお人柄なのか、本当にリラックスして楽しく学ぶことが出来ました。

・聞き書きの作品はなかなかできませんが、先生のお話を伺って、今回は特に、認知症になられたお花の先生のことをぜひ書いてみたいと強く思いました。

・「聞き書き」は、相手の想いを知り、想いを伝え残せる手法だと考えています。ヘルパーセラ

ピー効果も大きいと思われます。

・初参加。小田先生の楽しい話に加え、聞く、書く、本にするという聞き書きの流れが実践を通して深く学ぶことができました。超々花丸をもらえてうれしかったです。

・製本ができないとせっかく書いたものが無駄になると、そのことがいつも気になっていましたが、今日製本教室で、こんなに簡単にできるのだと嬉しくなりました。

・有意義な一日を過ごさせていただきました。今日の活は、大変感動し、家に持ち帰り、何か私にできることから始めてみようかと思ひます。

③訪問介護職員向けの喀たん吸引等研修（第1・2号研修）

平成24年4月「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正により、介護福祉士及び一定の研修を受けた介護職員等においては、医療や看護との連携による安全確保が図られているなど一定の条件のもとに、「たんの吸引等」の行為を実施できるようになりました。

平成27年度より、宮崎県に訪問看護職員向けの喀痰吸引等研修機関登録を行い、特に、在宅での療養のサポートをする訪問介護事業所の職員で研修参加の時間が合わず受講が困難な状態の方のため、仕事をしながらでも受講しやすい平日の18時半以降、土日祝日の9時からの時間帯で集中的に講座を組みました。

これから高齢化が進み、在宅での療養生活に医療的な依存度の高い方も増えていると思われます。高齢者施設などの限られたところしか選択肢がないのでなく、在宅で過ごす方の生活を支える為、宮崎県内の介護職の方のスキルアップに貢献できることはNPOの役割だと思ひます。

仕事が終わってからの受講でハードなスケジュールであったが、真剣で充実した講習となった。スケジュールのコーディネートや講義を受け持っていた池田ヒトミさんは、実学だけでなく実習を含めて研修できるかあさんの家は、これから必要だと評価いただいた。かあさんの家のスタッフは、座学50時間、試験をクリアして実習を受けることで、修了証を交付、宮崎県に登録されます。



【会 場】暮らしの保健室

【受講料】 70,000円

【期 日】

○座学・・・2016年 10/24、10/26、10/28、10/31、11/1、11/4、11/7、11/9、11/14、
11/16、11/18、11/21、11/25、11/28、11/30、12/2、12/5、12/7、12/9 救急

計 21 日 座学実時間 50 時間

座学講師：池田ヒトミ、市原美宏（医師）、堤育子（看護師）、白波さおり（看護師）
長友妙子（看護師）、救急蘇生法（南消防署）

○筆記試験・・・2016年12月9日＊座学50時間を修了して筆記試験

○演習・・・2016年12/10、12/11（3グループに分かれて、9：00～17：00）

《不特定多数の者に対する基本研修（演習）の内容及び回数》

- ・痰の吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部それぞれ5回以上）
- ・経管栄養（胃ろうまたは腸ろう、経鼻、それぞれ5回以上）
- ・救急蘇生法（1回以上）

演習指導：池田ヒトミ

演習支援者：長友妙子、中村美佐子、松浦澄、松枝文子
（看護師・喀たん吸引実務者研修修了者）

【研修修了者】 11名



④患者・家族のためのサポーター養成研修会

宮崎県事業委託

担当と報告 太田幸子

(1) がんカウンセラー養成研修会

- ①講義と、ワールドカフェ方式のワークショップ(話し合い)を実施した。
- ②対象者は、平成22～27年度宮崎県「がんカウンセラー養成研修会」修了者、がん診療連携拠点病院などの相談支援センターの相談員、訪問看護ステーションの訪問看護師、ケアマネジャー、がん患者会・がん患者サロンなどの運営関係者、がんサロン等に関心のある医療関係者、がん患者・がん経験者やその家族とした。
- ③名称を、平成28年度宮崎県「がんカウンセラー養成事業」がん患者と家族のためのサポーター養成講座 とした。今回のテーマは、“それぞれが支え合い、エンパワーメントするために”とした。
- ④期日は、平成29年2月11日(日)10時～16時
- ⑤講師は、がん患者と家族のための新しい相談支援を「暮らしの保健室」「マギーズ東京」で実践されている 秋山正子さんをお願いした。司会進行を、認定特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎 理事長 市原美穂と、同じく ふらっとカフェ担当の 太田幸子が務めた。
- ⑥研修会に向けてのチラシを作成し、県内の保健所(9)、がん診療連携拠点病院等の緩和ケア科・相談支援センター・病院の地域医療連携室(43)、訪問看護ステーション(149)、地域包括支援センター(70)、平成27年度の受講者、相談室・がんサロン・がん患者団体(20)、健康づくり協会、宮崎県医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、介護支援専門員協会、社会福祉協議会、宮崎市郡医師会、薬剤師会、宮崎市社会福祉協議会、昨年までの参加者などに送付した。また、宮崎キュアケアネットワークを通じて広報を行った。
- ⑦参加受付者には、ファックス、はがき、メールなどでご案内を返した。
- ⑧研修会参加者には、県内の患者サロンの情報と県立宮崎病院で開催している「ふらっとカフェ」のチラシを配布した。
- ⑨研修会の全部のプログラムを修了した者には、修了証をお渡しした。



●秋山さんの講演

病院以外での相談支援の試み～「がんとともに生きる」を支える～

白十字訪問看護ステーション 暮らしの保健室 NPO マギーズ東京 秋山正子

概略：マギーズがんケアリングセンター エジンバラの誕生 がんを経験したマギーさんががんの告知後「自分を取り戻す居場所が欲しい」、食事(栄養)法や運動、サプリメントなど自分も挑戦したい、適切な情報を選びとれる信頼できる案内人が欲しい、病人ではなく、一人の人間に戻れる小さな家庭的な居場所、死の恐怖の中で生きる喜びを再発見できる場が欲しいとの願いから、始まった。がんを経験した人・家族・友人が、戸惑い孤独な時に、自分の力を取り戻す、病院でも家でもない居場所づくり

マギーズセンターの2つの柱

①建築・環境-建物そのものが癒しの存在、誰にでも開かれた癒しの場 ②ヒューマンサポート-予約なしに立ち寄ることができる サービスは無料で提供、経験を積んだがん専門の医療従事者が常駐し、安心のサポート

・ひとりひとりに寄り添う(心が落ち着き、受け入れることができるまでそっと寄り添い、話に耳を傾ける)

・対等な立場(友達のように寄り添い、傾聴する)

・自分らしさをエンパワメント(「自分らしさ」を取り戻す)

マギーズ東京への歩み

マギーズセンターの相談支援をモデルに、厚生労働省の「在宅医療連携拠点」モデル事業で「暮らしの保健室」を新宿に開設 相談支援の場の必要性を実感

周囲に複数のがん治療病院がある豊洲に建設

がん患者さんの苦痛の変化

化学療法と副作用対策の発展で、身体的苦痛(嘔吐、悪心、脱毛)から、心理社会的苦痛・苦悩(家族・家事・仕事・社会活動への影響)へと苦痛の種類が変化してきた

支える、支えられるが循環する場

治療中の当事者の方も 自分にもできることがあるとボランティアで参加 作りあげるプロセスを共にする意味は大

マギーズセンターが大切にしていること

目的：がん腫・進行度にかかわらず、がんによる影響を受ける全ての人に支援を提供すること

・診断・治療に関するその人への影響を変えること

・がん以外のことを考えられるようにすること 自分に立ち戻り、自分の人生で何が大切かを考えられる居場所

・利用者は大きな課題を抱えているが、自分たちでそれを軽減できると思えるようにすること

・誰かに聴いてもらえること、心の中にあることを吐き出すこと、話せる空間があること

・人は指示されたくない

・答えを与えるのではない 人はこのような状況に耐えられるようになりたいのである

- ・自分がどうやればいいのかを見つけ出したい
- ・一人の人間として接してほしい
- ・あなたにとって何が大切なのかを聴く、そのうえでその人にとって必要な情報を提供する
- ・違う見方ができることを感じてもらうこと Cue は利用者から発信される

マギーズ流ヒューマンサポートの持つ意味

- ・ひとりひとりに寄り添うには？雑談の中にその人の人生が見える ナラティブアプローチは雑談から 病院の中では、なかなか「普通の会話」ができない
- ・医療的知識を持った友人のように 専門職としての立ち位置とは違う
- ・自分の強さに気づき始めたことをキャッチできるか？
自分を取り戻した瞬間に立ち会える！

地域包括ケアの基本理念は、マギーズのヒューマンサポートにつながる

「尊厳の保持」と「自立生活の支援」 本人の選択と、本人・家族の心がまえ
自己決定支援の重要性

●ワールドカフェとは

「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考えに基づいた話し合いの手法

- ・本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話を行う（話は短く、簡潔に）
- ・自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えることにより生まれる場の一体感を味わえる
- ・メンバーの組み合わせを変えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる
- ・参加者数は12人から、1,000人以上でも実施可能です。

●ワールドカフェの流れ

- 1、現在のメンバーで各テーブルごとに話し合いをする
- 2、話していない方が、テーブルの模造紙に内容を書き留める
関連あることは近くに記入する 模造紙の使い方の画像提示
- 3、各テーブルで一人だけ「テーブルホスト」になり、
そのテーブルに残る。それ以外のメンバーは旅人となり、
それぞれ別のテーブルに移動し、新しいメンバーと座る
- 4、テーブルホストは、模造紙に書き留められたことを参考に、
テーブルで話し合われた内容をざっと紹介する
- 5、新しいメンバーで話し合いをする
- 6、再び元のテーブルに戻り、他のテーブルで話した内容を持ち帰り話し合う
- 7、最後に全員で本日の気づきなどについて話し合う



●ワールドカフェ「寄り添う」とは

4～6名の16グループ 内5グループは男性1～3名混合

途中コーヒータムをはさみ、2回の席替え後、テーブルごとのまとめの発表

- 1、信頼関係、話しやすい環境、時にはそばにいただけ
- 2、環境、心の姿勢、人生に興味を持つこと
- 3、話しやすい雰囲気作り、聴いています 間も大切に 声のトーン、リズム
相手のペースで聴く姿勢 きっかけ、糸口を作る
- 4、環境、状況、言葉、行動 人と人 気づき、気遣い その患者さんにとって何が
大切か、情報共有の悪影響 何で知っているの
- 5、相手の目を見て話す 聞きながら答えを考えてしまう 裏側を感じとる
“デートしたい”の電話→調子悪い or 会いたい
受け手側一話し方、接し方で見ている 表情 姿勢
- 6、信頼関係 ありのままの話を受け止める 目線
- 7、寄り添う対象 骨肉腫の友人 笑顔、空気読む 相手に興味、関心を持つ 思う
家族とも寄り添う 相手を理解する 理解されていることがわかる
- 8、答えを出さないと どういう言葉が適切か いいことを言ってあげないといけない
と思ってしまう 言葉を無理に引き出そうとしない 沈黙の時間を一緒に過ごす
ただそばにいる つらい時間を一緒に過ごす 気持ちを理解しようとする気持ち
愛を持って接する
- 9、×ケアをする、される人→お互い力を発揮できるように関係し合う
- 10、聴くことに徹底 否定しない あなたのことを知りたい いつも気にかけている
精一杯頑張っている 気丈にふるまい、考えに固まっている人いる
自分を認めよう、ほめよう 前向き、心安定する方向に向けるように
- 11、セラピー 距離感、アロマ 第3者必要 近くない人の方が話しやすい
間が大切 しゃべるまで待つ 考えを整理している時間 見守っておく
- 12、何かしら得ようとして来ている 聴く側のコンディション整えておく
- 13、心から話せる環境 違いを把握して接する 寄り添う側の気持ちの安定必要
- 14、環境、表情 トーン見ながらこちら側も 又来て下さいね
気づけるように自分のスキルアップ 話してくれるタイミング待つ
- 15、がんの家族と患者さん 支援者側の意見 当事者側の考え方、見方を変えてみる
いいこともあった 仕事に役立つ 転んでもただでは起き上がらないよ
- 16、患者の思い届いてないかも 失敗してもいいから心で話してくれていい
私しか伝えられない体操教室している

●秋山さんからまとめ

あたり所は医療者にしかないかも 手が一杯あるよ 実践からつながりができる

混ぜこぜの話が一番大事

答えはない 一人ひとり考えが違う 全部答え

聴く人の心がまえ、意識として、話しやすい環境で、どう感じているのかを知る
認めるとは、自分のゴールを押し付けない 気づき(気づくこと)をゴールに

●アンケートに記入してもらう。

●最後まで受講された方には、宮崎県知事印が押された修了証をお渡しする。

《考察》

がん患者・家族のためのサポーター養成研修会

・マギーズが、イギリスで必要とされ、東京でも来場者が多く、必要とされていることがわかった。医療の場だけでは、補えない部分を、担っていることがわかる。

・場の力もあり、医療の知識をもった友人のような、専門家による傾聴は、患者さんが心のうちを吐き出し、自分を取り戻す過程を一緒に経験することとなる。

・今回は、患者さん・ご家族の参加者が多く、医療職の方から、本音の話が聞けて良かったとの声が多く寄せられた。医療の現場でも、傾聴や全人的ケア(その人まるごとケア)が必要と言われているが、実際は話を聴く時間が十分でないことがわかった。

・参加者が、立場にかかわらず話ができたことは、良い経験となった。自分だけでは思いつかない考えを沢山知ることができた。

・マギーズのヒューマンサポートの「寄り添うこと」について話すことで、どのように寄り添ったらよいかを考えた。

・患者さんの話をよく聴くことで、見かけから判断するのではなく、必要なサポート、余計なサポートがわかる。

・今回の研修で、得られたことは、医療関係者だけでなく、家庭や職場でも利用可能なヒューマンサポートとなる。

・最近よく聞く、地域包括ケアは、マギーズの理念と一緒にということがわかった。

・今回、看護学生さんたちの参加があり、一人でワールドカフェのグループ討議に入るのは無理だから配慮してほしいとのことで、最初のグループの職種の配慮をしなかった。討議が始まったら心配はいらなかったように話が弾んでいた。

・患者さんで、グループのメンバーが介護職ばかりで、自分はここにいるべきではないと思い、途中で帰られた方がいらした。配慮が足りなかったことを反省している。

・医療者で患者になった方、フィットネスインストラクターで患者となった方など、色々な立場で患者となった方が、自分なりの専門を生かしたサポートをしようと取り組んでいらっしやることがわかった。様々なソーシャルサポートが宮崎でも生まれようとしていることがわかった。

・患者会やサロン、ソーシャルサポートの情報を集め、必要とされる方に情報提供できるようにしたい。

・がんの化学療法が進歩し、がんをもって長く生きる人が増えた。それに伴い、悩みや心配事の内容も変化している。東京大学の臨床倫理の明日を拓く～本人・家族とともに考える意思決定～の講義を受けた。人の心理やサポートについて研究されている。勉強し続けることが必要、来年度も継続していくことを期待する。

3) エンドオブライフケア支援事業

【暮らしの保健室】

地域に開放した暮らしの保健室を目指して、

暮らしの保健室で催される内容を、毎月「暮らしの保健室だより」として発行した。

計 12 回発行

通年として、「ゆるりサロン」月・水 10:00～15:00 が開かれている。要支援までの認定を受けるまでもない一人暮らしの高齢の方や、要介護であっても、デイサービスのない日など、気軽に出かけられ、そして、そこに行くとなじみの顔があり、楽しみができる。そうすることで、健康が取り戻せたり、認知症などの進行を抑えることができている。

本年度から、月に1回、「ゆるり短歌会」がスタートした。ここで読まれる1編1篇が、生活の中から感じられることや、季節の気配に感じられる感情などが織り込まれている。

そのほかの行事や会合など、40回、300名を超える方々の利用があった。

《暮らしの保健室利用状況》 「ゆるりサロン」は定例・毎週月、水 10:00～15:00

4月	2	土	13:30～15:30	お灸教室
	8	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
5月	7	土	13:30～15:30	お灸教室
	13	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	14	土	10:30～14:00	えがおキッチン
	15	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会
	18	水	19:00～20:30	理事会
	31	火	19:00～20:30	定期総会
6月	4	土	13:30～15:30	お灸教室
	10	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	22	水	15:00～17:00	小児イベント実行委員会
7月	3	日		本部喜代子さんをしのぶ会
	8	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	10	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会
	11	月	15:30～16:30	理事会
8月	12	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会

	21	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会
--	----	---	-------------	---------

9月	9	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	10	土	13:30～15:30	お灸教室
	24	土	13:30～15:30	四つ葉の会 交流会
10月	1	土	13:30～15:30	お灸教室
	6	木	19:00～20:30	喀痰吸引等研修実行委員会
	7	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	22	土	10:30～14:00	えがおキッチン
	24	月	18:30～	喀痰吸引等研修(10月24日～)
11月	3	土	13:30～15:30	お灸教室
	11	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	13	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会
12月	3	土	13:30～15:30	お灸教室【お灸男子】
	9	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	17	土	10:30～14:00	えがおキッチン
	18	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会
1月	13	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	15	日	10:00～12:00	聞き書き勉強会
2月	9	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	10	日	10:00～16:00	みやざき聞き書き学校
3月	10	金	10:30～12:00	ゆるり短歌会
	12	日	10:30～14:00	えがおキッチン
	18	土	10:00～12:00	お灸教室
	22	水	16:00～17:00	常任理事会

事業	事業概要	事業内容と実績
----	------	---------

◎ゆるりサロン

実施日時：
毎週月・水曜日（週2）
10:00～15:00

担当理事：
立川志乃
ボランティア：
矢野小枝子、
畠山桂子、吉岡順子、南谷桂子

体操指導：
請園宣子

手芸教室指導：
三堂悦子（機織り指導）
大山さよ子
（パッチワーク指導）

タクティールケア
佐伯衣江・吉岡順子

音楽療法
毎月第1水曜日
指導：南正覚文子



◆実施日（回数）

2016年4月(8)、5月(8)、6月(9)、7月(7)、8月(9)、9月(7)、
10月(8)、11月(8)、12月(7)、2017年1月(6)、2月(8)、3
月(9) 合計 93回

◆延べ利用者（人数）

2016年4月(33)、5月(44)、6月(51)、7月(37)、8月(42)、
9月(44)、10月(41)、11月(39)、12月(32)、2017年1月(35)、
2月(44)、3月(38) 合計 398名

◆のべボランティア数(人数)

2016年4月(43)、5月(48)、6月(46)、7月(40)、8月(40)、
9月(42)、10月(42)、11月(44)、12月(43)、2017年1月(35)、
2月(44)、3月(50) 合計 496名

年間行事：

4/4 花見、 6/13 オカリナ演奏、 8/29 オカリナ演奏

9/14 敬老の日(利用者の皆さんへ音楽療法時の写真を額に入れて
プレゼント)

10/15 小戸の橋ストリートフェスティバル参加

10～1月 宮崎市民活動センタードネーション活動参加

11/9 カラオケ(コロック倶楽部)、12/21 クリスマス会、

1/30 三社詣り

4～2月 イオン幸せのイエローレシートキャンペーン参加

昼食をみんなと一緒に頂き、楽しいおしゃべり場を作っている。日常の健康管理を行い、パッチワークや編み物、機織りなど手仕事を楽しんでいる。タクティールケアは、心も体も癒され、利用者から大好評です。また、音楽療法も、大きな声を出して歌い、楽器を奏でて楽しんでいる。健康体操も大変好評である。



事業

事業概要

事業内容と実績

◎えがおキッチン

講師：松井康代
(助産師・調理師)



(12月)



(3月)

◎セルフケアのための
お灸教室

講師：園田清美
(看護師・鍼灸師)



☆えがおキッチン

スローフードで、無農薬野菜や無添加乗れ調味料を使っての体に優しい料理を学びます。

5/14(土) 「かんたん中華料理」

参加者 8名 講師：松井康代

10/22(土) 「糖質制限のお話・クラウドブレッドを作ろう」

参加者 13名 講師：長野仁美

12/17(土) 「素材の味やうま味を生かそう」

参加者 7名 講師：内田乃里子

3/12(日) 「プロに学ぶ日本料理～お花見弁当～」

参加者 13名 講師：高橋 寛

(ANA ホリディイン・リゾート総料理長)



合計 4回 のべ参加人数 31名

今年度は5回企画をしたが、準備不足や広報が遅くなり、8月は中止となった。今年度の新しい取り組みとして、外部講師を依頼した。日本料理や糖質制限食、素材を生かしたレシピなど、新しい試みが好評であった。子どもの参加できる回が2回で、全体的にも大人の参加が多かった。内容や広報については、今後検討する必要がある。

☆『セルフケアのためのお灸教室』

実施日と参加人数 (新規)

① 4/2 (土) 13:30～15:00 「入門編」・春のお灸 (ストレス) 5 (1)

② 5/7 (土) 13:30～15:00 「入門編」・肩こり 4 (1)

③ 6/4 (土) 13:30～15:00 「腰痛」 4 (4)

① 7/9 (土) 13:30～15:00 「美肌お灸」 4 (3)

② 9/10 (土) 13:30～15:00 「入門編」・太りやすい 6 (2)

③ 10/1 (土) 13:30～15:00 「入門編」・養生灸 4 (3)

④ 11/5 (土) 13:30～15:00 「入門編」・冬のお灸 6 (2)

⑤ 12/11 (日) 10:30～12:00 「お灸男子」 3
2017年

⑥ 3/18 (土) 10:00～11:30 「入門編」・膝のお灸 5 (2)

参加人数 41 (18) 名

事業	事業概要	事業内容と実績
----	------	---------



◎ゆるり短歌会

実施日時：
毎月第2金曜日
10:00～12:00

指導：堀越照代

担当：立川志乃

会友：
高山美智子・坂口まゆみ
堀越照代・立川志乃
興梶恵子・戸部恵美子
稲葉厚子



実施2年目に入り、月1回のペースで開催し計9回実施できた。参加していただいた方の紹介で来られる方が多く、お灸体験の効果を実感して友人に声をかけてくださっているようです。

しかし、実施後体調に変調をきたした方が1名、ショウガ灸（隔物灸）で水泡が出た方が1名あり、実施後のサポートにも配慮したい。初回アンケートではセルフケアのお灸を続けたいかに対し、全員の方から「続けたい」との回答。リピーターの方参加率が高く、教室が支えられています。満足度を高めるためにもテーマを精選し工夫していく必要があると考える。

リピーターの方からは「棒灸」が好評で愛用者が増えています。今後も取り入れていきたい。

「お灸男子」は30～40歳の男性3名の参加があり、関心を持っていただけ今後も実施してほしいとの希望があった。

☆ゆるり短歌会

◆実施日(参加人数)

2016年4/8(9)、5/13(3)、6/15(6)、7/8(3)、8/12(6)、9/9(7)、10/7(7)、11/11(6)、12/9(7)、2017年1/13(6)、2/10(5)、3/10(6)

合計12回 のべ参加人数71名

参加者は、7人くらいで、2首ずつ持ち寄り、皆で鑑賞します。先生に添削していただくことも楽しみです。私たちが詠んだ短歌よりずっとすてきに変身です。「老いて歌おう」や「宮日歌壇」に応募するなど意欲的になっています。

- ◎枝に咲く木蓮モクレンもよし風に散り地にある花も美しくあり
- ◎雨の止み雲の去りゆく大空に桜の花は今さかりなり
- ◎体内で抗菌薬も点滴もききめのなくて自力で治せ
- ◎左手に夫の育てし花なればまひまひとても生かせざりしよ
- ◎五十過ぎ夫の独立口にする深きところに根を張りたらん
- ◎一節だけ心に残り読み終えず海があまりに青いのです
- ◎母に添う今年生まれの岬馬初嘶きを聞く日も近し

* ホームホスピス宮崎のホームページに作品を開催しています。

事業	事業概要	事業内容と実績
よろず相談室	<p>◎よろず相談室</p> <p>相談担当： 市原美穂 久保野イツ子 祐末めぐみ</p> <p>相談件数…22件</p> <p>相談内容内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢・がん 11件 ・その他認知症、胃ろうなど <p>平均年齢・・・85歳 (主に家族から相談)</p> <p>22件のうち かあさんの家入居 3名</p>	<p>介護の相談では、施設の選び方を教えてほしいというものや、施設介護の抑制に対する考え方など、切羽詰った相談が多い。最後まで口から食べさせたいという家族の気持ちがあるけれど絶食で食べられないという、ここまでしか私達にはできませんという施設のリスクの課題もある。そのギャップを感じる相談が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人保健施設や病院からの退院後の受け入れ先の相談。 ・高齢者のがん、手術の必要があるのか。 ・施設介護の抑制の問題。 ・一人暮らしの親が心配、宮崎へ呼び寄せてもよいのか。 ・がんの告知を受けて治療法に関する相談。 ・終末期の家族としての受け入れをどうしたらよいのか。 ・誤嚥性肺炎で入院。胃ろうを勧められるが、「食べられなければ、死んだほうがまし。」と本人。家族は、家で介護する自信がない。

事業	事業概要	事業内容と実績
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">かあさんの家</p>	<p>◎かあさんの家の運営 (平成 29 年 3 月 31 日現在)</p> <p>統括マネージャー 祐末 めぐみ</p> <p>曾師主任・薬師寺恵</p> <p>霧島主任・前田なつ</p> <p>月見ヶ丘・荒川久美子</p>  	<p>◆かあさんの家の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した運営を目指す ・研修生の受け入れ ・家族会の開催 <p>スタッフの病気などでスタッフ不足になり、シフトを組めない状態になった。このままでは、ケアの質が保てないという状態になり、平成 29 年 3 月末で、櫛をしばらく休止するという決断をした。</p> <p>櫛の住人 6 名を、曾師に 2 名、霧島に 3 名、月見ヶ丘に 1 名、転居して頂き、スタッフも移動して 3 軒で運営することになった。人材の確保ができるようになるまで、櫛を休止していかざるを得ない状況だが、今後医療ニーズの高い人の在宅療養は増加すると思われる。介護職の不足は、かあさんの家だけでなく日本全体の介護現場の課題となっている。</p> <p>《事業内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 訪問診療、訪問看護と必要に応じてその他の職種の訪問サービスを受け入れ、地域連携サービスを整える。ここから、他の事業所のデイサービスなど利用する。 ② 24 時間 365 日対応で、夜間 1 名、昼間 2 名のスタッフ配置。 ③ 家族を対象とした市のプロセスの理解や、看取りの心構えなどを、かかりつけ医や訪問看護ステーションと連携して保管する。看取りの時は、家族の食事や寝具などを提供し、安心して寄り添えるように配慮する。 ④ 高齢者の摂食嚥下に配慮して嚥下訓練やソフト食の提供。 ⑤ 本人の意思を尊重した個別ケアを実施する。(排泄、食事、入浴、睡眠など) ⑥ 防災など地域住民と連携し、日ごろからのコミュニケーションを図る。 ⑦ 空いている民家を利用することで、地域の共有財産として限りなく自宅に近い空間を提供し、それが安心に繋がっている。 ⑧ 研修医、医学生、看護学生、自治学院、在宅ホスピスリーダー養成の研修の受け入れの研修の場として提供している。

事業	事業概要	事業内容と実績
かあさんの家	<p>かあさんの家 お花会</p> <p>かあさんの家・曾師</p> <p>平成 29 年 3 月 31 日現在 入居者： 5 名 平均介護度 3.8</p> <p>入居者延べ人数 1825 名 入居延べ日数 1825 日</p> <p>クリスマス会や誕生会など 5 回開催・延べ 38 名参加</p> <p>かあさんの家・霧島</p> <p>平成 29 年 3 月 31 日現在</p> <p>入居者：5 名 平均介護度：4.8</p> <p>入居者延べ人数 1647 名 入居延べ日数 1648 日</p> <p>クリスマス会や誕生会など 5 回開催・延べ 37 名参加</p>	<p>・かあさんの家お花見 期日：5月7日（土）10：30～14：20 会場：フローランテ宮崎 参加者：（スタッフ家族含む）、 曾師・16名、霧島・12名、櫛・15名、月見ヶ丘・10名</p> <p>☆かあさんの家・曾師 看取り数：3名（うち1名は江南病院入院ご死去） 新たな入居者：1名、櫛よりの転居2名 ・気管カニューレと胃瘻2名、認知症とがん1名 3名の方を看取った。気管カニューレ、胃瘻、意思疎通は瞬きのかた、認認知症と大腸がんの方、嚥下障害が進行し、呑み込みが困難な状態になり、熱発し入院。その後1週間で逝去された。 曾師の方々は、認知症もあり重度の介護が必要であり、医療依存度の高い方が多かった。それだけに介護の技術と医療的なセンスが求められる。</p> <p>☆かあさんの家・霧島 看取り数：5名（うち1名は古賀総合病院入院ご死去） 新たな入居者：3名 櫛よりの転居3名 ・神経難病2名、胃瘻3名、気管カニューレ1名</p> <p>5名の方を看取った。かあさんの家の住人として12年のIさんは、100歳の誕生日を迎え、ご家族が全員集合となった。また、Uさんは、神経難病で、病状が進行していても、ご家族の介護を受けて最後まで口から食べることに挑戦。最後は病院にて亡くなった。そのほか、気管カニューレ、胃瘻の方2名。遷延性障害であるが、目で意思を確認しながらのケアがあった。ご家族が寄り添って丁寧な看取りであった。2名は、がんと認知症で、ターミナル期に入居された</p> <div data-bbox="847 1447 1257 1675" style="text-align: center;">  </div>

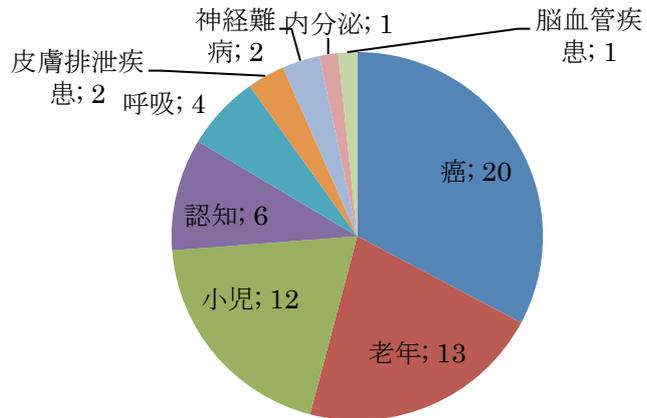
事業	事業概要	事業内容と実績
かあさんの家	<p>かあさんの家・櫛</p> <p>入居者： 6 名 平均介護度 4.3</p> <p>入居者延べ人数 1487 名 入居延べ日数 1487 日</p> <p>クリスマス会や誕生会など 4 回開催・延べ 22 名参加</p>	<p>☆かあさんの家・櫛</p> <p>看取り数：1名、新入居者：0名</p> <p>認知症の人に対するケアと、不意に立ち上がり転倒予防のケアが重要であった。リスクに対しては、迅速に対応し家族に説明し、何度もスタッフ間のケアの共有のためにカンファを開いた。スタッフの入院など介護職数の不足のため、研修生の働きに助けられた。</p> <p>霧島に3名、月見ヶ丘に1名、曾師に2名の方が転居となった。看板も新たに付け替えたが、3月末で休止の状態となる。</p> 
	<p>かあさんの家・月見ヶ丘</p> <p>平成 29 年 3 月 31 日現在</p> <p>入居者：5 名 平均介護度 4.4 入居者延べ人数 1642 名</p> <p>入居延べ日数 1642 日 クリスマス会や誕生会など 7 回開催・延べ 52 名参加</p> 	<p>☆かあさんの家・月見が丘</p> <p>看取り数：2名、新入居者：0名 櫛よりの転居1名</p> <p>神経難病、摂食嚥下障害、認知症などで、医療的にも I V H、経管栄養、喀たん吸引などの医行為が求められ、重度介護が必要であるが、スタッフも住人も家族も、みんな明るく笑いが絶えない。また、台所と風呂の位置を入れ替えて、居間にいるかたがたを常に見守れる配置に住宅改修した。耐震工事も含めて、快適な空間となった。</p> <p>入居 6 年後亡くなった H さんのご家族の申し出で、偲ぶ会を行った。看取り時のご家族の覚悟などをお聞きし、スタッフの思い出など、お互いに語り合うよい会であった。</p> 

事業	事業概要	事業内容と実績
かあさんの家	<p style="text-align: center;">研修生の受け入れ</p> <p>団体数 5 団体 研修生 合計 27 名 受け入れ延べ日数 124 日</p>	<p>◆お誕生会 それぞれのお誕生会をご家族に積極的にかかわっていただくようにした。それぞれに工夫されて、ホームパーティになっている。</p> <p>◆かあさんの家除草（庭掃除）ボランティア 檜の庭の手入れをご家族の方が剪定も含めてやってくださって、季節の花々も楽しめるようにと心を配ってくださっている。</p> <p>◆研修生の受け入れ 研修医や看護学生の研修や実習などを受け入れた。本年度も引き続き神奈川県平塚共済病院からの研修医 2 年目のドクターを毎月 1 名、城山病院の地域医療研修の一環として受け入れた。また、宮崎大学医学部医学科 2 年生の研修が始まり、医学教育推進の一助を担うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平塚共済病院医師臨床研修医（城山病院より依頼） 5 月～2 月 【11 名の医師】 ・宮崎大学医学部医学科 2 年学外早期体験実習 8 月 15 日～8 月 18 日 【4 名】 8 月 22 日～8 月 25 日 【3 名】 12 月 26 日～12 月 29 日 【2 名】 ・宮崎大学医学部看護学科 4 年総合実習 7 月 11 日～7 月 29 日 【3 名】 ・宮崎県職員研修（自治学院） 10 月 17 日～10 月 20 日 【8 名】

4) 医療・介護保険事業

事業	事業概要	事業内容と実績
訪問介護ステーションぱりおん	<p>★管理者：甲斐昌江</p> <p>★サービス提供責任者： 薬師寺恵 甲斐昌江 荒川久美子</p> <p>★スタッフ：19名 (内リーダー研修3名) (平成29年3月31日現在)</p> <p><u>介護福祉士11名</u> 甲斐昌江、荒川久美子、 薬師寺恵、矢野多津子、 堀美和子、川越和子(准看)、 日高静佳(准看)、金子晃子、 里脇希実子、黒原愛子、 二宮淳</p> <p><u>介護職員基礎研修受講：1名</u> 松山純子</p> <p><u>ヘルパー1級：2名</u> 松山和世、久保野イツ子 (看護師)</p> <p><u>ヘルパー2級：5名</u> 太田幸、清水妙子、 前田なつ、深井まゆみ、 松本まゆみ</p>	<p>月1回定例でスタッフ研修を行っている。また、住人の受け入れや症状の変化に応じて、スタッフ会議を臨機応変に行っている。医療との連携では、主任が中心になって報告連絡を欠かさないようにしている。</p> <p>体調を壊して入院するスタッフもあり、そのために、シフト調整を工夫しながらの日々であった。</p> <p>【内部研修】</p> <p>①各「かあさんの家」カンファランス(毎月1回) 状況の変化に応じ速やかに事例検討会を行っている。</p> <p>②定例スタッフ研修(毎月第4水曜日)</p> <p>5/26 現任研修(ホームホスピスの基準・自己分析)8名 講師：理事長 市原美穂</p> <p>6/23 メディカルアロマ講座 ～生活の中にアロマを取り入れて～ 13名 講師：日高里美(アロマ健康アドバイザー)</p> <p>7/26 上半期の振り返り、夏季手当支給 18名</p> <p>9/13 緊急時の対応(DVD) たんの吸引・看取りケアについて 12名 講師：主任介護支援専門員 祐末めぐみ</p> <p>10/13 事故・ヒヤリから見えてくるもの(服薬・転倒) 講師：主任介護支援専門員 祐末めぐみ</p> <p>12/23 忘年会 冬季手当支給 18名 1, 2, 3月は、人員不足のため会議なし</p> <p>【外部研修】(参加人数)</p> <p>6月11日 「摂食嚥下障害の基礎」 (嚥下臨床研究会)(2)</p> <p>9月8日 「救急研修会」(宮崎市南消防署)(2)</p> <p>9月16日 「ホームヘルパー研修」 (宮崎県社会福祉協議会)(3)</p> <p>10～12月 訪問介護職員向けの喀たん吸引等研修 (第1・2号研修) (11)</p> <p>10月6, 20日、11月16日、12月7日、1月20日、 2月10, 22日 介護労働者雇用責任者研修 (介護労働安定センター)(14)</p>

◆利用者病名



◆看取り

在宅:6名、かあさんの家:2名、

計 8名

研修参加

外部講師派遣:11団体
(別紙参照)

外部研修参加
延べ人数 14名

- 11月 難病研修 看護協会 白波
- 12月 ホームホスピス全国合同研修会 中村
- 1月 小児在宅医療研修 MRT MICC 堤 白波
- 1月 在宅感染対策研修 日向 堤 白波
- 2月 日本ホスピス・在宅ケア研究会 久留米 白波
- 2月 在宅医療・介護連携の推進に係る看護職の研修 看護協会 堤
- 2月 ワークライフバランス研修 AZM ホール 白波 中村
- 2月 在宅医療実践のための多職種協働研修会 市郡医師会病院 堤
- 3月 ホスピスナース研修・マギーズ見学 日本財団 堤
- 3月 ぐるみん参加 オルブライトホール 堤 白波

研修生受入れ

- 9月 熊本大学専門看護師研修 2名 (2週間)
- 9月 宮崎県看護協会ステップ1研修 2名 (1週間)

5) ホームホスピス推進研修センター事業

事業	事業概要	事業内容と実績
----	------	---------

<p>日本財団・在宅ホスピス実践リーダー養成研修</p>	<p>日本財団 在宅ホスピスケア実践 リーダー養成 研修担当： 久保野イツ子 祐末めぐみ</p> <p>研修生： 3 地域から 3 名 他のホームホスピスの 研修生の短期受け入れ 1 名</p>	<p>【目的】 看取りを含む質の高い在宅ホスピスケアを行う専門職の養成</p> <p>【内容】 研修受け入れ機関として、ホームホスピスカあさんの家において、現場中心のホスピスケア・看取りの実地研修を6か月間にわたり行う。</p> <p>【研修者】 看護師・介護福祉士・ケアマネジャーなどの専門職であること。</p> <p>【支援内容】 ・研修生の生活費補助（無給の場合）と受け入れ機関の研修費用が助成される。原則として研修者1名あたり45万円/月</p> <p>☆山口 絹 H27・4/1～H28・9/23 三重県伊勢市</p>  <p>☆佐藤 優子 H27・7/1～H28・12/27 福島県福島市</p>  <p>☆西海 隆 H28・8/1～H29・1/27 宮崎県日南市</p> 
------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業	事業概要	事業内容と実績
----	------	---------

	<p>平成27年8月10日認証 (平成27年9月30日期末) 主たる事務所を宮崎市恒々2丁目19番6号におく</p>	<p>一般社団法人全国ホームホスピス協会事務局の運営 同じ事務所の中で、協会の業務を運営している。人員の体制を整えて始動したばかりの時に、4月14日の夜、熊本地震が発生。ホームホスピスわれもころが被災した。すぐに被災支援本部</p>
--	--------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6) 情報・広報

①ニュース発行及びパンフレット

ニュースレター 21号・・・6/27 発行

暮らしの保健室だより・・・毎月初めに発行(12回)

《ホームページ》 <http://www.npo-hhm.jp/>

《ブログ》より熊本地震[2016年04月18日(Mon)]

熊本県をはじめ、地震で被害に遭われた皆様、心よりお見舞い申し上げます。

また、「宮崎県は大丈夫ですか」とお電話くださった皆様、ご心配いただき、感謝申し上げます。

宮崎市内は、週末まで体に感じる余震もありましたが大丈夫です。

熊本県には、私たちの仲間「ホームホスピスわれもこう」があります。

全員無事との連絡がきておりますが、物資の不足もあるとのこと。

現在、道路が寸断されていたり、渋滞もひどいこともあり、

直接的な支援が難しい状況ではありますが、力になるべく準備を進めております。

窓口は、全国ホームホスピス協会事務局です。

不慣れなためリンクさせることができませんが、

全国ホームホスピス協会 facebook を検索してください。



マスコミなどの紹介

《 雑誌などの掲載の雑誌名 》

- 2016.4 0→100 在宅新療
- 2016.10 月刊介護保険 vol.248
- 2016.7 月刊仕事
- 2016.7 公衆衛生情報
- 2016.9 総合診療のGノート
- 2016.10 平成28年度厚生労働白書
- 2016.12 病院
- 2017.3 おはよう21
- 2017.3 家庭画報
- 2017.3 文藝春秋
- 2017.3 月刊介護保険4月号

《新聞の掲載》

- 2016.4 徳島新聞
- 2016.5 毎日新聞
- 2016.7 朝日新聞
- 2016.7 宮崎日日新聞
- 2016.11 読売新聞
- 2017.1 産経新聞
- 2017.1 宮崎日日新聞

《WEBの掲載》

- 2016.7 yomiuri online ヨミドクター
 2016.9 yomiuri online ヨミドクター
 2016.12 yomiuri online ヨミドクター

《表彰》

2016.6 地域福祉学会 優秀実践賞



2017.3 NHK 第92回放送記念日 感謝状

②講演・講師派遣

市原（I）、久保野（K）、祐末（M）、堤（T）、白波（S）

月	日	曜	講演		
4月	3	日	あわホームホスピス研究会	徳島県	I
	9	土	宮崎県医師会	宮崎市	S
	18	月	宮崎県医師会	宮崎市	T
	25	月	宮崎県医師会	宮崎市	T
5月	2	月	赤江地区民生委員	宮崎市	T
	9	月	宮崎県医師会	宮崎市	T
	11	水	特別支援学校医療的ケア実施教員等研修	宮崎市	T
	12	木	介護予防教室(赤江包括支援センター)	宮崎市	T
	16	月	宮崎県医師会	宮崎市	T
	17	火	日南看護専門学校	日南市	T
	23	月	宮崎県医師会	宮崎市	T
28	土	日本尊厳死協会九州支部	佐賀県	I	
6月	5	日	第1回宮崎県緩和ケア研究会	宮崎市	T
	7	火	日南看護専門学校	日南市	T
	16	木	喀痰吸引等指導者(伝達)講習	宮崎市	T
	22	水	日南看護専門学校	日南市	T
	24	金	奈良県国民健康保険直営診療施設運営協議会医療部会研究集会	奈良県	I
	27	月	宮崎県医師会	宮崎市	T

月	日	曜	講 演		
7 月	13	水	医療的ケア教員講習会	宮崎市	T
	16	土	宮崎市男女協働参画センター	宮崎市	I
	24	日	ホームホスピスあわじ	兵庫県	I
	31	日	藍ちゃんの家	三重県	I
8 月	3	水	特別支援学校医療的ケア実施教員等研修	宮崎市	T
	28	日	(公社)鳥取県看護協会研修会	鳥取県	I
9 月	2	金	第 14 回日本臨床医療福祉学会	秋田県	I
	4	日	宮崎県医師会	宮崎市	S
	12	月	SS体操クラブ研修会	宮崎市	I
	16	金	県立病院等看護職員研修	宮崎市	T
	17	土	宮崎県看護協会	宮崎市	T
			日本社会事業大学	東京都	I
	24	土	第 10 回宮崎県セミナー(宮崎県看護協会)	宮崎市	T
27	火	宮崎看護専門学校	宮崎市	S	
10 月	4	火	宮崎看護専門学校	宮崎市	S
	5	水	あけぼの園	国富町	I
	9	日	第 40 回日本死の臨床研究会年次大会シンポジスト	北海道	I
	12	水	宮崎看護専門学校	宮崎市	T
	17	月	宮崎看護専門学校	宮崎市	T
	20	木	日南看護専門学校	日南市	S
	21	金	傾聴ボランティア養成講座	川南町	K
	25	火	看護の集い(豊肥保健所)	大分県	I
	29	土	訪問看護研修STEP2(宮崎県看護協会)	宮崎市	T
	30	日	札幌市立大学	北海道	I
11 月	1	火	宮崎県立看護大学	宮崎市	I
	9	水	日南看護専門学校	日南市	S
	17	木	宮崎県人権同和対策課	宮崎市	I
			日南看護専門学校	日南市	T
	20	日	一般教育「がん看護Ⅱ」研修(宮崎県看護等研修センター)	宮崎市	T
	22	火	笹川医療財団	東京都	I
	28	月	日南看護専門学校	日南市	T
30	水	喀痰吸引等研修	宮崎市	T	
12 月	10	土	在宅医療フォーラム	大分県	I
	21	水	喀痰吸引等研修	宮崎市	T

月	日	曜	講 演		
1 月	14	土	和歌山病院協会	和歌山県	I
	17	火	宮崎県看護協会	宮崎市	T
	20	金	中野クリニック	鹿児島県	I
	22	日	二葉薬局 第6回公開講座	小林市	I
2 月	4~5	土・日	日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会	福岡県	I
	4	土	コンチネンス・マスター研修	宮崎市	M
	5	日	宮崎大学	宮崎市	T
	20	月	介護保険に関する主治医研修会(宮崎県医師会)	宮崎市	T
3 月	5	日	介護予防講演会	佐賀県	I
	9	木	喀痰吸引等研修	宮崎市	T
	29	水	介護支援専門員実務者研修	宮崎市	M
合 計					63

見学者受け入れ

月	日	曜	見学者名		人数
4 月	4	月	井福	福岡県	2
	8	金	大村理江	石川県	2
	15	金	小屋敷照美	鹿児島県	1
	22	金	日本財団広報部	東京都	1
5 月	16	月	あおいけあ 他	神奈川県 鹿児島県	6
	28	土	つぼみ薬局		1
	29	土	武蔵野総合クリニック	東京都	1
6 月	22	水	河野博美	鹿児島県	3
7 月	5	火	中野クリニック	鹿児島県	5
	9	土	生活を支える看護師の会	東京都	9
	11	月	株式会社今朝サービスとも	東京都	3
8 月	4	木	辻田	大阪府	1
	12	金	野口	福岡県	1
			神田	宮崎市	1
			上田	宮崎市	1
	14	日	有村	鹿児島県	5
	22	月	栃木かあさんの家・もりの家	栃木県 青森県	3
23	火	石沢(看護学生)	山口県	1	

月	日	曜	見学者名		人数
8月	24	水	介護プラス	福岡県	3
			公益財団法人仁泉会	福島県	1
	25	木	井階友貴	福井県	2
	29	月	東京都福祉支援局高齢社会対策部施設支援課	東京都	4
9月	6	火	静岡県立大学	静岡県	4
	17	土	東京都議会議員(生活者ネットワーク)	東京都	2
	18	日	諏訪	熊本県	4
	20	火	(株)メディア	東京都	2
	28	水	仲宗根	沖縄県	1
	30	金		延岡市	4
10月	12	水	きりんのゆめ	埼玉県	1
	18	火	札幌市立大学	北海道	1
11月	4	金	ホームピアむつみあい	東京都	2
			辻本	埼玉県	1
	10	木	朝日新聞(取材)	愛知県	1
	14	月	カクイックスウイング	宮崎市	1
			宮崎内科クリニック	福岡県	5
	22	火	「日本財団在宅看護センター」起業家育成事業第3期生	東京都他	14
12月	8	木	黒木		1
	19	月	東京都在宅医	東京都	1
	20	火	内山	大阪府	1
	23	金		福岡県	1
	26	月	東北大学(板倉)	宮城県	1
1月	23	月	高橋	宮城県	3
	27	金	臼杵市7事業所勉強会	大分県	10
2月	3	金	川添	北海道	2
	9	木	山本	宮崎市 鹿児島県	3
	10	金	訪問看護ステーションあゆみ	山口県	2
	21	火	九州厚生局	熊本県	2
	22	水	心笑	山口県	2
			玉田	神奈川県	2
3月	17	金	東洋大学	東京都	1
合計			団体	人数	132

7) 組織運営

①理事会・定期総会

・理事会

日時：

- 28年度第1回 5月18日 19時 ・平成28年度事業計画案、予算案について
- 28年度第2回 7月11日 15時半 ・理事長・副理事長選任と順序について
- 28年度第3回 2月1日 19時半 ・かあさんの家事業について
- 28年度第4回 3月30日 19時 ・平成29年度予算案、平成29年度事業計画案について
定期総会日程について

場所：暮らしの保健室

・定期総会

定時総会 平成28年5月31日（火）午後7時から8時半

暮らしの保健室

正会員総数31名のうち 総会出席会員数24名（うち委任出席14名）

議長：松田公利 議事録署名人：内田保實、久保野イツ子

1. 平成27年度事業報告・収支報告
2. 監査報告：吉村一隆
3. 役員選出

報告事項…平成28年度事業計画・予算

・会員（平成29年3月31日現在）

正会員 22名 賛助会員 89名 団体賛助会員 3団体

②事務局

・事務局会議

開催日：6/15, 8/29, 10/14, 1/6

参加者：市原美穂、久保野イツ子、黒岩雄二、祐末めぐみ、甲斐昌江、立川志乃、岡田瑞穂、
岩切知峰、久保野郁美、堤育子

《事務局体制》 岡田瑞穂、久保野郁美（平成28年10月14日より育休復帰）、岩切知峰

平成 28 年度決算報告

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

金額の単位は円

収益の部	H28 予算額	H28 決算額	決算差額	備考
1. 非収益事業				寄付、助成金及び法人税法上の収益事業に該当しない事業
会費	250,000	210,000	▲ 40,000	正会員 21 人* 10,000
寄付金	3,000,000	4,222,600	1,222,600	賛助会員含む(104 口)
講座収益	1,550,000	1,467,000	▲ 83,000	喀痰吸引、その他
委託事業	920,000	920,000	0	ふらっとカフェ、がんサポ
助成金	300,000	500,000	200,000	小児シンポジウム
暮らしの保健室活動	200,000	296,200	96,200	ケアサロン(ゆるり、短歌、えがお、灸)
研修・実習	5,500,000	8,323,000	2,823,000	リーダー養成 270 万*3 人、研修医等
業務委託	3,000,000	1,772,095	▲ 1,227,905	全国ホームホスピス協会家賃・事務委託
その他の収益	3,000,000	1,349,556	▲ 1,650,444	講師収入・見学料等
小 計	17,720,000	19,060,451	1,340,451	
2. 収益事業				
(1) かあさんの家事業				居宅介護事業含む
訪問介護報酬等	60,000,000	48,904,425	▲ 11,095,575	訪問介護、居宅、処遇改善、原案作成
生活支援収益	32,500,000	28,314,944	▲ 4,185,056	食材、生活支援、居室費、共益費等
助成金	1,740,000	1,740,000	0	宮崎市地域ホスピス補助事業
小 計	94,240,000	78,959,369	▲ 15,280,631	
(2) 訪問看護				
訪問看護報酬等	25,000,000	25,237,760	237,760	訪問看護報酬、訪問看護利用料
教育実習謝金	100,000	471,500	371,500	
小 計	25,100,000	25,709,260	609,260	
(3) その他の収益				
雑収入	2,000,000	2,653,726	653,726	書籍、衛生用品、介護用品販売、その他
受取利息	1,000	370	▲ 630	
小 計	2,001,000	2,654,096	653,096	
当期事業収益合計	139,061,000	126,383,176	▲ 12,677,824	
3. 事業外収入				
借入金	0	0	0	
当期事業外収入合計	0	0	0	
前年度繰越金	42,674,543	42,674,543	0	
当期収益合計	181,735,543	169,057,719	▲ 12,677,824	

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

金額の単位は円

支出の部	H28 予算額	H28 決算額	決算差額	備考
1. 非収益事業				
【事業費】				
講座・講演	3,000,000	1,563,388	1,436,612	認定記念講演、聞き書き、がんサポーター養成、講師謝金等
ボランティア活動	1,000,000	725,516	274,484	ボランティア活動、サロン活動
(以下、その他の経費)	3,650,000	810,753	2,839,247	
研修費		17,000		日本死の臨床研修会、在宅ホスピス研修会
消耗品費		17,657		
旅費交通費		650,634		ケアサロン(ゆるり、短歌、えがお、灸)
その他の経費		125,462		接待交際費、印刷経費
業務委託		0		全国ホームホスピス協会家賃・事務委託
小 計	7,650,000	3,099,657	4,550,343	
【管理費】				
理事報酬	2,760,000	2,760,000	0	
事務人件費	7,000,000	5,441,284	1,558,716	
(以下、通常経費)	6,500,000	5,974,558	525,442	
水道光熱費		31,885		
事務消耗品		111,794		
賃借料		262,014		駐車場、事務機器リース
租税公課		5,229,263		
通信費		133,172		
車両費		24,790		燃料費
労務管理		84,240		会計事務所、労務管理、システム利用料
慶弔費		97,400		
その他の経費	1,500,000	1,623,496	▲ 123,496	支払利息、雑費、雑損失、保険料、諸会費
小 計	17,760,000	15,799,338	1,960,662	
事業合計	25,410,000	18,898,995	6,511,005	
2. 収益事業				
(1) かあさんの家事業 (居宅介護事業含む)				
【事業費】				
人件費	72,000,000	73,294,800	▲ 1,294,800	喀痰吸引、社会保険、福利厚生費含む
(以下、経費)	17,000,000	16,141,152	858,848	
研修費		1,088,900		
食材費		2,759,049		
居住経費		1,854,924		清掃用具レンタル等
賃借料		4,999,669		家賃、駐車場、事務機器リース
水道光熱費		2,821,255		
通信費		868,628		
消耗品費		595,744		
旅費交通費		342,545		
車両費		269,239		燃料費、諸経費
その他の経費		541,199		接待交際、新聞図書、印刷費、会議費
小 計	89,000,000	89,435,952		

【管理費】				
(以下、経費)	2,000,000	1,390,266	609,734	
住居管理費		219,600		修繕費、改修費共益費
慶弔費		194,180		
労務管理		397,440		会計事務所、労務管理、システム利用料
その他の経費		579,046		保険料
小計	2,000,000	1,390,266	609,734	
事業合計	91,000,000	90,826,218	173,782	
(2) 訪問看護事業				
【事業費】				
人件費	24,600,000	17,874,033	6,725,967	社会保険、福利厚生費含む
(以下、通常経費)	3,000,000	2,129,040	870,960	
研修費		30,650		
消耗品費		124,615		
通信費		532,258		
賃借料		1,005,827		駐車場、事務機器リース
旅費交通費		121,894		
車両費		168,296		燃料費、諸経費
その他の経費		145,500		接待交際、印刷費、看護経費、会議費
小計	27,600,000	20,003,073	7,596,927	
【管理費】				
事務人件費	400,000	362,800	37,200	
(以下、通常経費)	2,000,000	1,078,741		
水道光熱費		42,514		
慶弔費		14,433		
労務管理		575,640		会計事務所、労務管理、システム利用料
その他の経費		446,154		保険料
小計	2,400,000	1,441,541	958,459	
事業合計	30,000,000	21,444,614	8,555,386	
(3) その他の支出				
【事業費】				
本仕入れ	150,000	56,658	93,342	
介護用品仕入れ	2,000,000	2,036,739	▲ 36,739	衛生用品
小計	2,150,000	2,093,397	56,603	
【管理費】				
減価償却費	3,500,000	5,407,924	▲ 1,907,924	建物、車両、備品
予備費	691,874		691,874	
小計	4,191,874	5,407,924	▲ 1,216,050	
事業合計	6,341,874	7,501,321	▲ 1,159,447	
当期事業支出合計	152,751,874	138,671,148	14,080,726	
3. 事業外支出				
借入返済引当金	22,493,307	0	22,493,307	
当期事業外支出合計	22,493,307	0	22,493,307	
4. 予備費				
当期支出合計	181,735,543	138,671,148	43,064,395	

平成 28 年度決算収支差額：(収益)169,057,719 円－(支出)138,671,148 円＝(繰越) 30,386,571 円

※ 研修費の一部、消耗品費、通信費、水道光熱費、賃借料の一部、労務管理費は、各部門の人員費比率による按分により算出→非収益事業（15%）：かあさんの家事業（65%）：訪問看護事業（20%）

